

## Z407b 光赤外線大学間連携における観測企画運営委員会の活動と有機的連携の実現

山中雅之, 野上大作 (京都大学), 秋田谷洋, 中岡竜也 (広島大学), 高木聖子 (北海道大学), 高橋隼 (兵庫県立大学), 宝田拓也 (埼玉大学) 永山貴宏 (鹿児島大学), 花山秀和, 堀内貴史, 前原裕之, 関口和寛 (国立天文台), 村田勝寛 (東京工業大学), 森鼻久美子 (名古屋大学), 諸隈智貴 (東京大学)

観測企画運営委員会 (WG) は、光・赤外線大学間連携事業参画機関に所属する研究者で構成される。本事業の命題である、即応的な連携観測による突発現象の解明や、教育に関する支援を実現させるため活動している。各委員は、柔軟な観測のために望遠鏡や装置の維持・運用を行っている。本事業においては、参画機関内の研究者を対象として、予期せぬ突発現象のための TOO 観測や、ある程度イベント発生時期を予期できる変動現象のためのキャンペーン観測を年2回程度公募している。観測検討会を開催し、集まった提案の内容を PI と観測者でしっかりと共有している。PI により観測が発動されれば、WG は直ちに観測の可否を判断し、各機関での速やかな観測を促す。観測報告は Slack で行われ、各委員は必要に応じてデータ解析を行う。また、その後の研究が円滑に進むよう進捗報告会を開催している。これらの活動の結果、第二期 (2017年4月以降) においては22件もの観測が行われ、多くの観測研究が円滑に進みつつあり、幾つかは論文化される見込みがあると期待される。これを受けて WG は PASJ 特集号出版の検討を開始した。また、第二期よりマルチメッセンジャー天文学を推進しており、IceCube が検出した高エネルギーニュートリノに付随する活動的なブレーザーをかなた望遠鏡が発見 (IceCube collaboration et al. 2018, Science) するなど貢献を果たしている。また、WG では教育事業の一環として初心者向け IRAF 講習会と短期滞在実習を開催している。IRAF 講習会では、zoom を通して一次処理と開口測光を丁寧に指導している。アンケートの結果、9割もの参加者から意義があったと賛同を得ている。